

第1章 「目指すべき社会」に向けた展望

第1節 「目指すべき社会」に向けて

歳を重ねることは、誰しも避けることのできない現実であり、また、歳とともに様々な経験を重ねながら有意義な人生を送れることを誰もが願うものです。

そのためには、老化などによって身体が衰えていく中、自らが努めて健康というものを維持し続けていくことが重要なことであり、また、介護が必要となった場合においても、一人ひとりがかけがえのない存在として尊重され、安心した生活を送ることができるよう、社会全体で支え合っていくことが必要となってきます。

既に超高齢社会を迎えている中で、高齢者同士はもとより、世代を超えて共に支え合いながら、住み慣れた地域で安心した生活とともに、自身の尊厳が守られ、また、生きがいを持ちながら暮らせる社会が「目指すべき社会」といえます。

本市においても、この超高齢社会の中で充実した生活を送ることができる「目指すべき社会」に向けて、継続的かつ効果的な施策の展開を図ります。



第2節 計画の将来像

高齢者一人ひとりが可能な限り住み慣れた地域で安心と安全に包まれながら、暮らしに「やさしさ」を実感できる社会を構築するため、本計画の「目指すべき社会」の将来像を

住み慣れたまちで自分らしく生きる ～高齢者にやさしい「わ」のまちひかり～

として、地域で暮らす高齢者一人ひとりが、日々の暮らしの中で「幸せ」や「満足」を心から実感でき、住み慣れたまちで自分らしく生きることのできる「わ」のまちひかりを目指します。



第3節 まちづくりの基本姿勢

高齢者が健康で生きがいをもって充実した生活が送れるよう、介護が必要な状態になっても、自身の尊厳が守られながら、幸せを実感できる地域社会を実現するため、「対話」「調和」「人の輪」の3つの「わ」をまちづくりの基本姿勢として、「目指すべき社会」に向けて取組みを進めます。

対 話

対話により互いの理解を深め助け合いのこころを育てます

多くの「対話」から生まれる信頼により、互いの理解を深め合うとともに、地域の一体感を強め、助け合いの心があふれる地域づくりを目指します。

調 和

高齢者自身も地域の担い手となるための調和を図ります

助け合いの心があふれることにより、高齢者自身も地域の担い手としての社会参加等が促進され、加えて限られた地域資源を有効に活用しながら世代間の「調和」を図ります。

人の輪

高齢者が暮らしにやさしさを実感できる社会を目指します

「調和」がとれたまちには、大きく、温かい「人の輪」が生まれ、これにより、活力と魅力に満ちあふれ、高齢者が暮らしにやさしさを実感できる社会を目指します。